

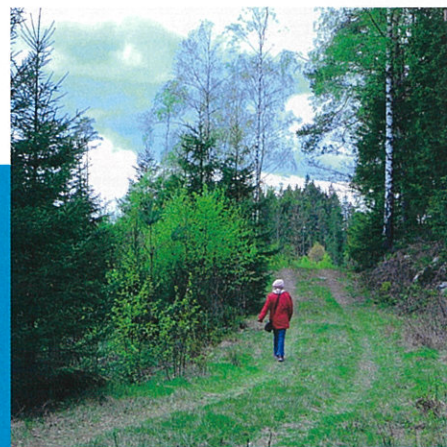
インクルージョン

# INCLUSIONを映画で考える10日間

Ten Days to Contemplate "INCLUSION" Through Film

## 10.28 [THU] ▶ 11.7 [SUN]

主催 | ableの会 | 東京都写真美術館 配給 | ableの会 配給協力 | ディレクターズシステム  
https://dsystem.jp/inclusion/



**トークショー開催!** ゲストと小栗監督のトーク、Q&Aを行います。(約40分)  
\*上映後のトークショーは、その回の映画をご覧いただいた方のみご参加いただけます。

10月30日[土] 13:00『Challenged』上映後  
ゲスト: 田島良昭さん(社会福祉法人南高愛隣会創設者、最高検察庁参与、瑞宝太鼓メンバー)

10月31日[日] 13:00『Challenged』上映後  
ゲスト: 杉本志乃さん(一般社団法人Arts and Creative Mind代表理事、ACM Gallery ディレクター)

11月3日[水・祝] 13:00『HOST TOWN』上映後  
ゲスト: 有森裕子さん(スペシャルオリンピックス日本 理事長)、ビリーブクルー

timetable	10:30	13:00	15:30
10月28日[木]	[English Subtitle Ver.] <b>Challenged</b> 英語版 舞台挨拶	able エイブル 舞台挨拶	HOST TOWN ホストタウン 舞台挨拶
10月29日[金]	Challenged チャレンジド	Believe ビリーブ	幸せの太鼓を響かせて ~INCLUSION~
10月30日[土]	幸せの太鼓を響かせて ~INCLUSION~ 舞台挨拶	Challenged チャレンジド	▶ 上映後トークショー ゲスト: 田島良昭さん、瑞宝太鼓メンバー
10月31日[日]	able エイブル	Challenged チャレンジド	▶ 上映後トークショー ゲスト: 杉本志乃さん
11月1日[月]	休館日		
11月2日[火]	able エイブル	Believe ビリーブ	Challenged チャレンジド
11月3日[水・祝]	Believe ビリーブ 舞台挨拶	HOST TOWN ホストタウン	▶ 上映後トークショー ゲスト: 有森裕子さん、ビリーブクルー
11月4日[木]	HOST TOWN ホストタウン	幸せの太鼓を響かせて ~INCLUSION~	able エイブル
11月5日[金]	able エイブル	HOST TOWN ホストタウン	Believe ビリーブ
11月6日[土]	幸せの太鼓を響かせて ~INCLUSION~	<b>東京都写真美術館ホール</b> 03-3280-0099 <a href="https://www.topmuseum.jp">https://www.topmuseum.jp</a> [各回定員入替制、座席指定]	
11月7日[日]	Challenged チャレンジド 舞台挨拶		

至 渋谷 JR恵比寿駅 東口 動く通路 恵比寿ガーデンプレイス

日比谷線恵比寿駅 1番出口 TOP MUSEUM

JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分、東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分  
恵比寿ガーデンプレイス内

**特別鑑賞券1,000円** [5作品共通・1回券] (税込)  
東京都写真美術館・ableの会 (info@film-able.com)・  
有隣堂アトレ恵比寿店にて発売中!

当日料金: 一般1,600円 障害者手帳をお持ちの方(付き添い2名まで) シニア・学生1,200円(税込)

\* ご来館予定のお客様は新型コロナウイルス感染症の拡大防止への取組にご理解とご協力をお願いいたします。  
\* 事業は諸般の事情により変更することがございます。あらかじめご了承ください。

インクルージョン

# INCLUSIONを映画で考える10日間



Ten Days to Contemplate "INCLUSION" Through Film



届かなかつた声を  
だれも置き去りに  
されないために

Voices of the Invisible.  
Leave No One Behind.

2021  
**10.28 ▶ 11.7**  
[THU] [SUN]  
@東京都写真美術館ホール(TOP MUSEUM)



製作総指揮・細川佳代子と監督・小栗謙一による20年にわたる5作品を一挙上映  
Five thought-provoking films about the mentally challenged produced over 20 years by executive producer Kayoko Hosokawa and director Kenichi Oguri.

主催 | ableの会 | 東京都写真美術館 配給 | ableの会 配給協力 | ディレクターズシステム <https://dsystem.jp/inclusion/>



私どもは、細川佳代子製作総指揮、小栗謙一監督のもと、知的発達障がいのある人々を主人公にしたドキュメンタリー映画を2000年からこれまでに5作、製作して参りました。

最新作『Challenged』を昨年8月にロードショー公開し、東京を皮切りに大阪、名古屋、京都、福岡、熊本、佐賀と全国展開を開始したのですが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中断しておりました。この度、東京都写真美術館ホールでの上映が叶い、これまでの5作品を一挙上映する運びとなりました。

どの作品にも、私たちが日頃気づくことの無かったメッセージが込められています。映画を見終わるとたくさんの事を話したくなります。障がいのある人の事、コミュニケーションのこと、家族のこと、友達のこと、外国の社会事情のこと、日本のこと、人間の魅力や可能性のことなど、たくさんの感じ方があり、たくさん話すことで、きっとなにかを見つけていただけることと思います。

この機会に是非ご高覧賜りたく、ご案内申し上げます。

ableの会



細川佳代子

ableの会代表  
公益財団法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長  
認定NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会会長  
NPO法人勇気の翼インクルージョン理事長

スペシャルオリンピックス日本の創設者である細川佳代子は、知的障がいのある人々との交流の中で、彼らは決して能力が劣っているのではない、それぞれが素晴らしい個性の持ち主であることを実感し、多くの人々に彼らの魅力を知ってもらい、彼らが普通に暮らせる社会を目指して、小栗監督とともに映画を作る決心をし、5作を製作した。



インクルージョン INCLUSIONを映画で考える10日間

できるって、何？これは、誰か特別な障がい者の物語ではなく、どこにでもいる、でも、とびぬけて魅力的な二人の少年の物語。



毎日映画コンクール記録文化映画賞受賞  
D'October映画祭 (USA) Best14  
IDFAアムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭Best22  
プラハ人権映画祭、テサロニキドキュメンタリー映画祭招待作品  
文部科学省選定



2001年 | カラー | モノラル | 35mm | 101分  
17才と19才の少年、ジュンとゲン。彼らには知的障がいがある。アリゾナに住む新婚夫婦マークとキャサリンの家にホームステイし、ハイスクールやリハビリテーションセンターで仕事のトレーニングに通う日々が始まる。キャサリンはボランティア団体で仕事をしてきたが、障がいのある人と暮らした経験はなかった。勉強会やネットで情報を集め準備したキャサリンは、二人を出迎え戸惑った。言葉が通じない。ジュンは目も合わさない。家に着くと、いきなり眠り込んでしまった。果たして本当に二人と暮らしていけるのだろうか……。しかし、夫マークが帰宅し夕食が始まると、二人の旺盛な食欲に、何やらうまくやっていけそうな気がしてくるのだった。これは、知的障がいのある人々それぞれの「可能性=able」の物語であるとともに、私たちが、知らず知らずに意識している先入観を打ち破っていく「可能性=able」の物語である。公開時、10万人以上の人々に感動を与えたドキュメンタリー。

協賛：トヨタ自動車株式会社/ノースウエスト航空/キャノン株式会社/日本オラクル/銀座ステファニー化粧品

ようこそ、一緒に生きていこう。エイミー、18歳、ダウン症。妹にも障がいがある。家族は14人。アイルランドの「小さな町の大家族」の愛と勇気の物語。



文部科学省選定 [家庭向き | 少年向き]  
びあ満足度ランキングNo.1



2004年 | カラー | DTS | 35mm | 101分  
2003年、アイルランドの首都ダブリンで、スペシャルオリンピックス夏季世界大会が開催された。郊外の小さな町が日本のアスリートのホストタウンに。その町に住むエイミーはダウン症で、陸軍軍曹の父と優しい母の間で12人の子供の9番目として生まれた。妹のリンジーも脳性マヒで、5回の手術を受けてきた。エイミーは体操のアスリートだが、今回の世界大会には選考されなかった。彼女は何事にもチャレンジする精神を持っている。養護学校から普通学校へ編入したのもその現れだ。両親も彼女の意思を尊重している。夢はセクレタリー。学校が終わると、トレーニングに通う。そんな彼女の町に、日本のアスリートがやってきた。世界大会の開会式に登場したのは、ネルソン・マンデラ、U2、シュワルツネッカー、コリン・ファレルなど。俳優マラク・マコートのナレーションと、井上鑑の音楽が、人生の瞬間瞬間に起きる問題を抱える家族をゆっくりと描き出す。

協力：Special Olympics International/SO日本  
協賛：Panasonic/TOYOTA/TOPPAN/銀座ステファニー化粧品/フォーラムエンジニアリング

僕たちは自分の目で世界を見る。



文部科学省選定 [家庭向き | 少年向き]  
びあ満足度ランキングNo.1



2005年 | カラー | DTS | 35mm | 109分  
2005年2月、スペシャルオリンピックスの冬季世界大会が開催された長野に世界中のメディアが集まった。その中に、カメラや録音機材を持った知的障がいのある9人の撮影クルーの姿があった。彼らの名はベリーブクルー。半年以上前からプロの指導を受け、撮影のトレーニングを重ねてきた。世界大会本番では、彼ら自身がカメラを回し、マイク片手にインタビューをし、競技会場に連日挑んだ。「障がい者ではできないのではない。社会が彼らをできないと思って、できなくさせているのだ」これは、スペシャルオリンピックスの創設者、ユニス・ケネディ・シュライバーの言葉。日頃のトレーニングから発揮される知的障がいのあるアスリートたちの素晴らしいパフォーマンスを、同じ障がいのあるクルーたち自身が記録する姿。信じられないこの出来事は、すべてが「信じる」ことから始まった。俳優・滝田栄が語る。

協力：SO日本/Special Olympics International  
協賛：Panasonic/KONICA MINOLTA/FUJINON/GOLDWIN/スノーボード/Amway/日産レンタカー

すべての音色が調和するとき、世界はきつと今より美しい。

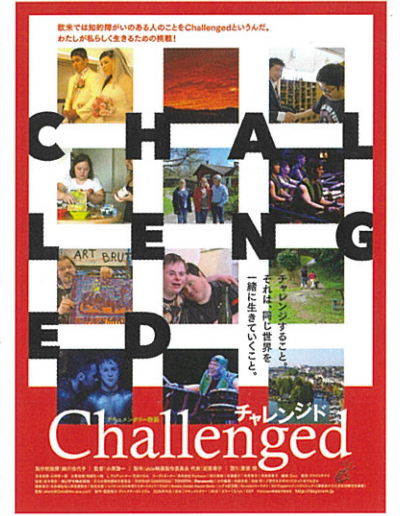


International Family Film Festival外国記録映画部門Finalist  
グローバル・ソーシャル・チェンジ映画祭 TOP23  
文部科学省特選 [成人向き | 青年向き]  
文部科学省選定 [家庭向き | 少年向き]  
厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財



2011年 | カラー | stereo | HD | 106分  
長崎、雲仙で暮らす知的発達障がいのある和太鼓チーム・瑞宝太鼓の物語。彼らは、太鼓を打つことを職業として、年間に130回ほどの公演をしている。団長の岩本友広さんは、7歳の時に両親が離婚、母親は他の兄弟を連れて何処かへ去っていった。父親も間もなく亡くなった。その後施設で育つ彼は、学校で出会った太鼓の魅力に取り憑かれるようになる。学校を終えて社会福祉法人南高愛隣会の能力開発センターで自立へのトレーニングを積みながら太鼓を続けた。ここには、2000年から始まったプロの太鼓チーム瑞宝太鼓があり、彼もその一員となった。太鼓の演奏を仕事としながら、地域社会の中で、普通の暮らしがしたい。そんな希望を叶えるように、彼は6年前に結婚し、4歳の子供を育てる父親でもある。彼らの願いは、素晴らしい演奏を日本中ですること。そんな彼らのもとへ、ある日、世界的な太鼓表現師・時勝矢一路が新曲を持ってやって来た……。俳優・萩原聖人が語る。

チャレンジすること。それは、同じ世界を一緒に生きていくこと。



SILICON Valley Asian Pacific Film Festival (USA) 最優秀作品賞受賞  
文部科学省選定 [成人向き | 青年向き]  
[English Subtitle Ver.] 英語版上映あり



2020年 | カラー | 5.1ch | DCP | 90分  
前作から8年、監督が成長を見守ってきた瑞宝太鼓が、フランスのナント市で開催された芸術祭に招待され、見事な演奏を披露した。一大センセーションを巻き起こした感動のステージの陰には私たちに想像できない努力の日々があった。その大成功の舞台を紹介すると同時に、カメラは、瑞宝太鼓と同じように社会参加を成し遂げているチャレンジたちの日常の姿を追った。フランス、ドイツ、スウェーデンへロードムービーのように旅するカメラが、自立への道を生きるチャレンジたちの清々しい暮らしを写しだす。さらに、障がいのある人々へ向けられた過去の過ちに取って視線を向け、そこから現在を見つめ直し、インクルージョン社会の実現に希望を託すドキュメンタリー映画。劇中にも登場する世界的指揮者、小林研一郎によるベートーヴェンの交響曲の数々、栗原類の語りによって構成される。

協賛：ホジキ株式会社/天心の譜映画製作委員会/TOPPAN SANKOKAI/TOYOTA/Panasonic

つんく♂ 養老孟司

好きなことを思いっきりできることは素敵だ。私の場合は、虫捕りだが、それは、自己啓発できる最高の瞬間なのだ。どんな誰であっても楽しく生きる事は権利だと思います。私も今一度初心を思い出し、無我夢中で音楽を愛したいとそう思います。

「Challenged」メッセージから